

劇場版「鬼滅の刃」無限列車編

心を燃やせ!

炎柱 煉獄杏寿郎

炎よりも熱く、
刃よりも鋭く。
炎柱・煉獄杏寿郎は前に進みつづける。
傷ついても、失っても、衰えても——。

鬼は煉獄杏寿郎を鬼の世界に誘うが、
彼の決意は揺るがない。
彼は言う——
「俺は俺の責務をまっとうする。ここにいる者は誰も死なせない」

鬼殺隊のなかでも最高位である《柱》のひとり。
その強さが戦いで表わされる。
燃え上がる刃が鬼を切り裂く——!

受け継がれるもの

座談会 special 心を燃やせ！

竈門炭治郎役 **花江夏樹**

竈門禰豆子役 **鬼頭明里**

煉獄杏寿郎役 **日野聡**

●はなえ・なつき／6月26日生まれ。アクロス エンタテインメント所属。今、心を燃やしているものは「初めての育児」

●きとう・あかり／10月16日生まれ。プロ・フィット所属。今、心を燃やしているものは「筋肉を燃やすこと。筋トレしてます」

●ひの・さとし／8月4日生まれ。アクセルワン所属。今、心を燃やしているものは「『無限列車編』の魅力を伝えることです！」

心を燃やした時間。竈門炭治郎役の花江夏樹と、禰豆子役の鬼頭明里、煉獄杏寿郎役の日野聡が語る『無限列車編』に込めた熱き思いとは――



戦う者たちの「強さ」を描く濃厚な時間

――劇場版『鬼滅の刃』公開おめでとうございます。完成した映像をご覧になった感想を教えてください。



illustrated by ANNA KODAMA
finished by SHIZUKA MATSUYAMA
digital works by ufotable

受け取った意志

少年たちは成長していく。炭治郎と行動することで変化していく我妻善逸と嘴平伊之助。戦いのなかで2人が受け取ったものを語った。



嘴平伊之助役 松岡禎丞

●まつおか・よしつぐ／9月17日生まれ。アイムエンタープライズ所属。今、心を燃やしているものは「この仕事（声優業）です。11年間やっても上限が見えません」

伊之助の変化と成長が炭治郎を救った

[illegible]

——最後に『無限列車編』を楽しみにしている方に、どんなところを見てほしいと思いますか?

松岡　これで自分が壊れても構わないというくらいの気持ちで、全力で挑んだ作品です。彼らの生きざまを、できるかぎり多くの方に見ていただきたいと思っています。



我妻善逸役 下野紘

●しもの・ひろ／4月21日生まれ。アイムエンタープライズ所属。今、心を燃やしているものは「声優です。自分のもてるすべてを使い、キャラクターの力を借り、たくさんの人を笑顔にしたい」

驚くほどかっこよかった善逸の戦い

——『無限列車編』公開おめでとうございます。ご覧になった感想をお聞かせください。

下野　泣きましたっ!!　余韻で2、3日『無限列車編』のいろんなシーンが頭から離れませんでした。

——下弦の壱・魘夢の印象をお聞かせください。

下野　魘夢を初めて見たときは、女性か男性かわからないくらい中性的だなと思いました。そこに平川（大輔）さんの柔らかい感じの声がついて、より色っぽいキャラクターになったと思いました。あの無邪気さが恐さを引き立てていると思いました。

——魘夢が見せた、善逸の「夢」の印象はいかがでしたか。そして禰豆子へのお気持ちはいかがですか?

下野　いかほども何も、最高です～　あの禰豆子ちゃんは、ズルいくらいかわいかったですね。禰豆子ちゃんのかわいらしさを前面にして個人的にもやりたかったシーンだったので、本当に楽しかったです。

——伊之助の「夢」では、善逸はチュン太郎として登場していましたね。

下野　原作コミックスを読んだときから、どう表現してやろうか楽しみでもあったくらい好きなシーンです。みんなかわいくて、思わず笑ってしまいました。

——そして炭治郎が見る「夢」はいかがでしたか。

下野　いやぁ、せつなかったですね……。幸せであればあるほど、せつなさが増すというか。音楽も相まって、もう思い出しただけで泣きそうになります。TVシリーズ第1話のオマージュのようなシーンにも、感動しました。

——今回は列車という動く密室の中での戦いになります。善逸の戦いの見どころはどこになるでしょうか?

下野　かっこよかった……。まさか禰豆子ちゃんのピンチにあんなふうに駆けつけると思ってなかったので興奮しました。すごくよかったと思います。

——そして猗窩座が登場します。猗窩座の印象をお聞かせください。

下野　恐ろしかったです。本当に。一瞬で登場したかと思いきや、突然現れた強い力で襲いかかってくるところは、言わずもがな迫力がありました。石田（彰）さんのお芝居がよすぎて、猗窩座が少し嫌いになりました（笑）。

——猗窩座の「強さ」をどう感じましたか?

下野　圧倒的だと思いました。[illegible]強さに執着している猗窩座は、本当に強敵だと思いました。

——猗窩座は「弱い者」「強い者」にこだわりを見せます。強さについてお聞かせください。炭治郎の「強さ」をどこに感じましたか?

下野　「絶望してもくじけない強さ」ですね。家族を殺され、妹を鬼にされても、どんなに絶望的な状況に陥ろうとも、くじけず前を向いていこうとするところが炭治郎の強さだと思います。

——善逸の「強さ」をどこに感じていますか?

下野　「ひとつのことをやりつづける強さ」。ひとつのことができればいい、それを極め抜けと言ってくれたじいちゃんのことばを信じ、おびえてもヘタレても、多くのことができなくても、自分にできることをやり抜く……それが善逸の強さだと思います。

——伊之助の「強さ」をどこに感じましたか?

下野　「自分を信じ抜く強さ」。自分は誰よりも強いと信じ、その意思を信じ、勇敢に真っすぐ突き進んでいくその信念が、伊之助の強さの源なんじゃないかと思います。

——煉獄の「強さ」をどこに感じましたか?

下野　「心を燃やす強さ」です。命を守り、つなげていくことが自分の使命だと思い、戦う……。煉獄さんは本当に凄い人だと思います。

——公開中ですが、注目してほしいポイントがあればお聞かせください。

下野　見どころや注目ポイントが多すぎてひと言では語れないですし、TVシリーズを見たことがある人も見たことがない人もどなたでも楽しめると思うので、ぜひ一度劇場に足を運んでみてください。



強さへのこだわり

人を喰らい、傷つくこともなく、老いることもない鬼。『無限列車編』に登場する2体の鬼は、圧倒的な強さで炭治郎たちをねじ伏せようとする。

お前も鬼にならないか？



猗窩座〔上弦の参〕

猗窩座役
石田彰

●いしだ・あきら／11月2日生まれ。ピアレスガーベラ所属。今、心を燃やしているものは……「いつの間にか心の薪（まき）は使い果たしているようです。もう燃やしたくても燃やすものがありません」

煉獄杏寿郎の圧に負けないように

——『無限列車編』が公開となりました。作品の印象をお聞かせください。

石田 走る列車の中という限定された空間で起こる事件は盛り上がりますよね。本作はそんな舞台に加え、うまく演出された舞台があるのがいいですね。

——『鬼滅の刃』はさまざまな過去と思いを抱える者たちが、決死の覚悟をもって人知れず鬼と戦う物語です。この物語や世界観にどんな印象を抱かれていますか。

石田 どのキャラクターも、振り切り方がすごいなと思っています。マンガというなかにリアリティをもたせるために表現を抑えるのではなく、思い切りよくやっているところが、この作品の魅力の一部分なのかなと思っていて、それが映画にも反映されているのかなと思いました。

——『無限列車編』の前半で活躍する鬼の下弦の壱・魘夢の印象はいかがですか？

石田 いい意味で頭のいい魔法と、不気味で派手な変容が見えますね。平川（大輔）君が演じることで、もともと魘夢という鬼がもっている「イヤなヤツ」感を残しつつ、愉快さが保たれているといういいバランスになっていると思います。

——『無限列車編』の後半にはいよいよ〈上弦の参〉の猗窩座が登場します。猗窩座役のお話があったときは、どんなお気持ちでしたか？

石田 ありがたく、うれしいお話だと思いました。

——猗窩座という鬼の印象をお聞かせください。

石田 猗窩座は強さを極めている至上主義で、ある種の狂気を秘めているようで。そんなとがりぐあいがなかなかおもしろそうだと思いました。

——猗窩座と煉獄の戦いとアクションシーンをどのように演じましたか。

石田 煉獄さんの強さ2人のぶつかり合いの内容は見ごたえがあり、見ているほうも力が入りますね。

——不老で、腕を失ってもすぐに生えてくる「鬼」という存在を演じるうえで意識したこと、大事にしたことはどんなことでしたか。

石田 鬼であり、かつ振り切れているキャラクターなので、普通の人として考えるよりも、もうちょっと狂気をはらんだ感じを意識して演じました。

——猗窩座は「強さ」を求めますが、煉獄の「強さ」をどこに感じますか。

石田 煉獄さんは普通ではない鍛錬によって裏打ちされたもののような気がします。

——炭治郎の「強さ」をどこに感じましたか？

石田 純粋さから来る必死な思いによって引き出されてくるものだと感じます。

——アフレコの思い出をお聞かせください。

石田 映画館で見ている人に「こんな猗窩座じゃダメだ」と思われてはいけないので、煉獄の圧に負けないようにしなければと思っていました。

——劇場へ行こうと思っているファンの方々へ、注目してほしいポイントなどをお聞かせください。

石田 煉獄さんがみずからの気持ちを吐露するところが最大のオススメポイントです。また炭治郎と家族の幸せな「夢」が描かれているので、ファンの方には楽しんでいただけると思っています。

あなたが思う強さとは？

石田 周囲を傷つけずに真っすぐ立っていられること。

心を燃やせ！

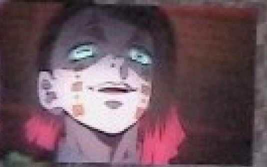
夢を見ながら死ねるなんて幸せだよね



魘夢〔下弦の壱〕

魘夢役
平川大輔

●ひらかわ・だいすけ／6月4日生まれ。今、心を燃やしているものは「やっぱりお芝居ですね。これからも精進していきたいと思っています」



魘夢が見せた「夢」は炭治郎の本来の姿

——『無限列車編』が公開されました。完成した映像をご覧になって、どんな感想を抱かれましたか。

平川 冒頭の映像はすごく繊細さがあって、その後は、ものすごく動くアニメーションに圧倒されました。作品を全部見終わった後に、呆然としてしばらく椅子から立ち上がれないような感じでしたね。そのときの気持ちをことばで表現するのはとても難しくて、どんなことばで感想を言ってもうそっぽいことばにしかならない感じがしています。

——下弦の壱・魘夢を完成した映像でご覧になって、どんな印象を受けましたか。

平川 とにかく「動きも表情もこれほど動くのか！」というくらいの映像に衝撃を受けました。それにしても、本当に魘夢は残酷な鬼ですよね。

——魘夢は鬼殺隊のメンバーに「夢」を見せますが、印象的だった夢はどなたの夢でしたか。

平川 いや～！ 炭治郎にあんな「夢」を見せて「ごめん」という気持ちでいっぱいです（苦笑）。あまりにも残酷な「夢」でしたね。今回描かれる炭治郎の「夢」は、炭治郎が送っていただろう、本来の日常なんだと思います。家族が鬼に殺されることがなければ、今もきっとああいう生活をしていたんです。炭治郎はいいお兄ちゃんで、弟妹たちも慕っていて、何気ない幸せな日々を送っている。そういう部分はどうしても本編では多くを見ることができませんでしたから、いち視聴者として、それを見ることができたうれしさはあったと思います。でも、それが「夢」であることは残酷ですよね……。

——今回の『無限列車編』は煉獄杏寿郎の生きざまが描かれているような物語でした。改めて彼をどんな人物だと思いましたか。

平川 煉獄さんの「夢」のなかで彼が弟（千寿郎）と話すシーンがあって、そのときに伝えた煉獄さんの想いや、弟に対する愛情がとても印象的でした。もしかしたら炭治郎や善逸、伊之助といった少年たちにも、弟を見るような気持ちで接していたのかもしれないなと感じました。

——それも煉獄自身の「強さ」につながっていたのかもしれませんね。さて、この作品をどのように楽しんでほしいと思いますか？

平川 作品はご覧いただくお客様の感情や感想が加わって、初めて完成するものだと思っています。ぜひ、ひとりでも多くの方に『劇場版「鬼滅の刃」無限列車編』をご覧いただいて、皆さんがそれぞれの形で、この作品を完成させていただけたらうれしいなと思います。

あなたが思う強さとは？

平川 肉体の強さと精神の強さ。今回の物語ではその両方の強さが描かれていたと思います。



心の調べ

作品を彩る音楽の数々、それはキャラクターたちの心の響きであり、物語をつづる旋律でもある。劇伴を担当した2人は、公開を迎え何を語るのか？

「無限列車編」は炭治郎たちにとって転換点になるエピソード（椎名）

劇場の音響設備を生かした体感する劇伴

――お2人は劇伴をつくるうえで「無限列車編」のエピソードに対してどんな印象を抱かれましたか？

椎名 この作品にかかわることになったときに原作コミックスを最後まで読ませていただいたんです。あとから読み返すと「無限列車編」は、まだ若い[illegible]、[illegible]、[illegible]にとって転換点になるエピソードだなと思いました。

梶浦 そうですよね。ここまでは炭治郎たちが強くなって勝つという流れだったと思うのですが、この「無限列車編」を観てから、今までのお話を見返すと、[illegible]（[illegible]さん）[illegible]が炭治郎に[illegible]を教えていたり、いろいろな登場人物が炭治郎に思いを伝えている作品でもあるんだなと思いました。

――お2人はTVシリーズに引き続き、今回も劇伴を共作されています。TVシリーズのときとつくり方や役割分担で変わったことはありますか？

椎名 基本的には変わっていません。ufotableさんの作品はTVシリーズでも劇場版でもフィルムスコアリング（映像に合わせて音楽をつくる手法）が多いんです。

梶浦 TVシリーズでは私は[illegible]をつくって、それ以外のところはすべて椎名さんが劇伴をおつくりになっていたんです。今回は私が最初のほうにエンディング（主題歌）をつくらせていただいて、本編のBGMに関してはエンディングのアレンジをしたパートのみを担当しています。今回の劇伴の多くは、椎名さんがTVシリーズを踏襲しつつ、イチからつくられているんです。

――TVシリーズのときは、梶浦さんがおつくりになった第1[illegible]に流れる楽曲（「[illegible]」）の[illegible]が[illegible]イメージ[illegible]、椎名さんがPVで[illegible]になって、イメージを膨らませたとうかがいました。今回もそういった音楽的なやりとりはあったのでしょうか？

椎名 今回、梶浦さんがおつくりになった主題歌「炎」の[illegible]がすごく高かったんです。その[illegible]に追い付かないといけないというプレッシャーがありましたね。TVシリーズの[illegible]梶浦さんがつくられたエンディングテーマ（「from the edge」）は「苦しくてもつらくても[illegible]」という内容の歌だったので、本編との対比ができて、劇伴がつくりやすかったんです。でも、今回は主題歌が本編に寄り添うような歌になっているので、どちらも引き立たせるための劇伴をつくるのは難しかったです。何度も、何度も曲をつくり直しました。

――TVシリーズではキャラクターごとにテーマ曲をつくって、それぞれキャラクターをイメージした楽器を使っていたそうですが、今回の劇伴でもそういった要素は受け継がれているんでしょうか。

椎名 はい。今回はTVシリーズと同じようにキャラクターごとに決めた楽器を使って、わかりやすくしています。たとえば今回はそれぞれの「夢」のシーンがありますが、この劇伴では、それぞれキャラクターのテーマのメロディとメインの楽器は変えずに、バック（伴奏）を変えて劇伴にしています。あと、今回は劇場作ですから音響でいろいろな効果の演奏をしています。「夢」のなかのシーンだったら、[illegible]で包み込むようにしたり、後ろから音を鳴らしたりして、作中の現実のシーンとは違う空間を感じてもらいたいなと思っていました。

――今回、物語を動かす人物として炎柱・煉獄杏寿郎が登場します。彼のテーマはどんなイメージでつくっていきましたか。

椎名 煉獄は炭治郎たちに比べてとにかく体が大きいので、その重みを出すことが難しかったです。劇伴で重厚感を出すのは結構難しいんですよね。TVシリーズ第4話の[illegible]のテーマをつくるときも重厚感を出すのに苦労しましたね。重厚感を出すためには低音をうまく使いたいなと思うんですが、ある一定の音を超えると、劇伴として聴こえにくくなってしまうんですよ。そういった意味では、劇場の音響設備で体感していただくのがいちばんいいと思います。劇場ではスーパーロー（超低音）を出しています。

――「[illegible]たち」のテーマ曲はどのようにおつくりになりましたか。

椎名 （下弦の[illegible]は）不気味さや得体の知れなさがあったので、TVシリーズの（鬼）のテーマの曲（「鬼の匂い」）の一部のフレーズを使って、そこから[illegible]が変わっていくのに合わせて、劇伴もだんだん変化していくようにしていました。〈上弦の参〉の[illegible]は[illegible]とは違って「[illegible]」という感じがあったんです。僕の世代ってエレキギターにアウトローのイメージを感じますので……。

梶浦 あはは（笑）。

椎名 エレキギターの「ギャーン」という感じが[illegible]に合うなと思って、ギターを使いました。

――[illegible]と煉獄の[illegible]のシーンは劇伴もブレイク（演奏を中断すること）を入れるなど、フィルムスコアリングならではのダイナミックな[illegible]が印象的でした。

椎名 フィルムスコアリングのシステムって実はコンポーザーとしてはすごく大変なんです。限られたスケジュールのなかで、クオリティを上げるために映像を[illegible]しつづけるし、同時進行で映像に合わせた音楽をつくっていかなきゃいけない。TVシリーズのときは、[illegible]で合わせていたんですが、劇場版では映像に合わせてくれた[illegible]があったんです。スタジオの[illegible]だけでなく、[illegible]さんやいろいろなスタッフが配慮してくださったので、とても[illegible]しています。

梶浦 ufotableさんは[illegible]のなかで[illegible]を[illegible]かせる場所をつくってくれるんです。[illegible]の効果を考えて映像をつくってくださることはとてもありがたいですし、そういうシーンの音楽をつくるのはプレッシャーもあります。でも、[illegible]のつくりがいも大きいんですよね。そこでつくった[illegible]が映像とがっちりとハマったときには、すごいものが生まれる。大変ではあるけど、すごくやりがいがありますね。

椎名 そうですね。映像と音楽が二人三脚でシーンをつくっていくと、相乗効果が生まれるところが[illegible]くらいになる。そこは[illegible]ならではだなと思います。

――今回の「無限列車編」で音楽と映像が相乗効果を生んでいると思うシーンはどんなところですか。

椎名 （「無限列車編」）の中で、禰豆子が戦っていて、善逸がそれを引き継いで戦うシーンがあるんです。ここはマッシュアップという手法を使って、DJのように禰豆子のテーマ音楽と[illegible]のテーマ音楽のテンポを合わせて、1曲につないでいるんです。メドレーではなく2つで1曲として聴けるようにしました。あのシーンは個人的にはうまくできたかなと思っています。

――今回[illegible]も苦労した劇伴はどのシーンでしたか？

椎名 ラストですね。主題歌と劇伴をうまく対比させたいと思ったんです。梶浦さんのつくられた主題歌には「[illegible]」というイメージがあったので、僕はその前に「淡いブルー」のイメージの曲をつくりたいと思ったんです。登場人物に寄り添う曲を上げすぎず、[illegible]に寄り添うような曲をつくるのは大変でしたね。ここだけで、何度もつくってはつくり直し、というやり取りがありました。

――そういう直しが続出するときは、椎名さんはどうやって切り替えていくんですか？

椎名 いやー、そうなんですよ。自分を切り替えるのは本当に難しいんです。どうしてもお渡しした前の曲のイメージが自分のなかに残ってしまいますから。今回は……「[illegible]」しました。

――[illegible]（笑）！

椎名 気分を切り替えるためには、食べるくらいしかなくて。アイスクリーム屋さんによく通っていたんです。通っているうちに店員さんが僕の顔を覚えてくれて、[illegible]やトッピングの[illegible]を覚えてくれるようになりました（笑）。そういうとき梶浦さんはどうしているんですか？

梶浦 よくわかりますよ（笑）。食べるのってすごく[illegible]早いんですよね。短時間で気分転換できるので。あとはマッサージか、お風呂に入ることですね。食べることですから、私はお風呂をおすすめしますね。私は作曲するときは、お風呂をずっと沸かしておいて、1曲できあがるごとにお風呂に入っています。

椎名 それはいいですね！

梶浦 スケジュールに余裕がなくなってきて短期間でたくさんの曲をつくるには、椎名さんがおっしゃったように「前につくった曲を忘れること」がポイントになると思うんです。新鮮な気持ちで新しい曲に向き合えるほうがいい。私にとってそれにいちばんいいのはお風呂です。音楽を聴いても気晴らしにはならないし、食べていると太っちゃう（笑）。

椎名 なるほど！ 今後はお風呂に入って切り替えることにします。

――すばらしいです。ぜひ、今後はお風呂に入って作曲活動を頑張ってください（笑）。

椎名 とてもいいことを教えてもらったような気がします。

梶浦 作曲家同士でこういう話をすることはあまりないので、こういう話ができて私も楽しいです（笑）。

――最後に、観客に「無限列車編」をどんなふうに楽しんでほしいかをお聞かせください。

椎名 映画館の音響設備でしか体感できないような楽曲をつくっているので、ぜひ劇場に足を運んでいただけたらと思います。基本的に、音の響きはどの席に着いてもほぼ変わらないように曲をつくっていますが、どうしても多少の違いは出てきます。もし気になる楽曲があったら、何度も足を運んで、音の響きを楽しんでほしいです。

梶浦 この「無限列車編」は物語もですが、戦いも[illegible]し、激しい。自分に置き換えると、その大変さがわかると思います。そのなかを炭治郎たち4人がどのように駆け抜けていくか、その姿をぜひ楽しんでほしいと思います。

心を燃やせ!

劇伴

梶浦由記×椎名豪 座談会 special

劇場作だからできる、包み込むような音づくりも（椎名）



あなたが思う強さとは？

梶浦 決めたことをきちんとできること。そして続けられること、でしょうか。

椎名 余裕がないときに心のキャパを[illegible]っ張ってでも大きくできる力。



●かじうら・ゆき／作曲家、作詞家。劇場版「空の境界」、劇場版「Fate/stay night [Heaven's Feel]」などを手がける。今、心を燃やしているものは「今も昔も、やはり音楽かなと思います。シンプルですが」

●しいな・ごう／作曲家。「衛宮さんちの今日のごはん」などで音楽を担当する。今、心を燃やしているものは「声優さんの声と楽器がうまく共存できるよう作曲すること」

刻まれた強さ

今作「無限列車編」でもタッグを組んだ2人。
燃え上がる炎のように、
想いを乗せた歌が劇場内に響きわたる。

主題歌
LiSA

●りさ／アーティスト。'11年にソロデビュー。これまでに17枚のシングルと5枚のアルバムを発表している。TVアニメ『鬼滅の刃』OPテーマ「紅蓮華」を収録したニューアルバム『LEO-NiNE』が発売中。「ファンの人が喜んでくれるLiSAのため」に今、心を燃やしているとのこと

物語の余韻を心に刻むように

――劇場版『鬼滅の刃』無限列車編』、公開おめでとうございます。改めて「鬼滅の刃」という作品やプロジェクトにかかわられていかがでしょうか。

LiSA　作品に込めるスタッフの皆さまの愛情がとても大きいので、私も[illegible]。TVアニメーションが始まったとき、その衣装のすばらしさにいつも驚かされます。

――アニメ「鬼滅の刃」における梶浦由記さんとのコラボレーションは、「from the edge」に続き2度目となります。梶浦さんとお仕事をするおもしろさ、楽しさはどんなところにお感じになっていますか。

LiSA　作品に誠実に向き合い制作される梶浦さんの楽曲への姿勢、そして、現場でミュージシャンや、私たちシンガーの気持ちを盛り上げながら温かく導いてくれる、人間力のすばらしさにいつも背中を押されます。

――今回の「無限列車編」の物語の印象をお聞かせください。

LiSA　好きなエピソードのひとつです。煉獄（杏寿郎）さんから「自分の生きざまとは何か」そして「強さとは何なのか」をたくさん受け取る物語だと感じています。

――今回、歌詞を書く際に最初に浮かんだフレーズはどこでしょうか。

LiSA　「強くなりたいと願い泣いた決意を胸に」というフレーズです。

――梶浦さんとの共作の際にLiSAさんが作詞するうえで意識された部分はどんなところでしょうか。

LiSA　作品に寄り添いながら比較的な表現を楽しく演出してくださる梶浦さんのことばを失わないように、私は直接的な想いを伝えることを心がけています。

――梶浦さんと交えてのレコーディングはいかがでしたか。

LiSA　梶浦さんが生み出してくれた曲のフレーズがことば、バンド、ボーカル、編曲、ミックスによって、どんどん進化していく感覚を楽しみました。

――完成した「無限列車編」の本編をご覧になった感想をお聞かせください。

LiSA　演出家さんや作画、声優さん、劇伴、映像、すべてが素晴らしくて、よりすてきな作品になっています。そこに炎を灯させていただいて幸せです。

――今作では、煉獄杏寿郎という強くて優しい柱が描かれます。また下弦の鬼・魘夢や上弦の参・猗窩座も登場します。

LiSA　煉獄さんには信念として芯があって、人間としての生き方や人生を見せていただきました。猗窩座の強さにも感じました。

――LiSAさんにとっての強さとは。

LiSA　自分の生きざまの強さ。一度決めたことを実行するための強さ、最後まで貫く強さ、でしょうか。

――魘夢についてはいかがですか。

LiSA　自己の欲望に対して貫徹で、執着が強く印象深い、クセのある鬼のひとりだなと思います。

――鬼たちと戦いつづける竈門炭治郎という少年の「強さ」をどんなふうに感じていますか。

LiSA　仲間を信じる強さ、自分自身にある優しさを失わない強さですね。

――劇場版「無限列車編」の物語が終わりを迎えた後に「炎」が流れます。この楽曲をどのように楽しんでほしいと思いますか。

LiSA　「無限列車編」の物語、皆さまの感情の、いろんな瞬間が残るように。それでも力強く前に向かっていけるような楽曲になるとうれしいです。

あなたが思う**強さ**とは？

LiSA　失敗や挫折から立ち上がる強さ。

作詞・作曲
梶浦由記

鑑賞後の心情をなぞる主題歌をめざして

――LiSAさんと組むのは今回で2度目。前回はTVシリーズ「鬼滅の刃」竈門炭治郎 立志編」のエンディングテーマ「from the edge」をともに手がけられていますが、LiSAさんと組むおもしろさはどんなところに感じていますか。

梶浦　LiSAさんのことはかなり昔から存じあげていて、私がBGMを担当している作品で、LiSAさんが主題歌を歌っていらしたことも何度もありました。でも、このまま直接の接点はないんだろうなと思っていたんです。お互いに別のフィールドで音楽をやっている感覚があったんですね。だから「鬼滅の刃」という作品がなければ、こうやって音楽をつくらせていただくご縁は生まれなかったんじゃないかと思っています。前回「from the edge」で初めて曲を書かせていただけて、本当にうれしかったですね。LiSAさんは骨太なアジアンボイスをお持ちで、ここまで声が強くカッコいい声の方は、なかなかいらっしゃらない。声の美しさとリズムの強さを兼ね備えていらっしゃるので、曲をつくらせていただくことは私にとってもすごく勉強になりました。

――今回の劇場版「鬼滅の刃」無限列車編」では主題歌「炎」をLiSAさんと手がけられています。どんな曲にしようとお考えでしたか。

梶浦　曲を書きはじめる前に、LiSAさんを含めてアニメのスタッフとミーティングをしたんです。そのときに、主題歌はミドルバラードにしようと、その場にいた方みんなの意見が一致しました。ミドルなテンポで、気持ちを紡いでいく曲にしようと。そういう基本的なところはすぐに決まっていたので、作曲はとてもやりやすかったですね。あとは、LiSAさんのお声を乗せたときに最も効果的なアレンジを考えていきました。バラードなので、LiSAさんが一音一音気持ちよく歌えるようなメロディラインにしたいと思っていたんです。LiSAさんがこれまで歌ってきた曲をいろいろと聴き込んで、いちばんいい声の部分を探しながら、曲をつくっていました。

――LiSAさんへの想いが込められた今回のレコーディングはいかがでしたか？

梶浦　バラードなのでLiSAさんには一度仮歌を吹き込んでいただいて、その仮歌に合わせてバンドの演奏をレコーディングしています。その仮歌がすごくて、バンドの演奏も想像以上のものになりました。その後、本番のレコーディングをしたんですが、仮歌からガラッと変わって、ことばにできないくらいの歌を歌ってくださいました。「炎」はLiSAさんが歌うことを想定してつくっていたので、私の期待値がかなり高かったのですが、そんな私の期待値も軽々と超える歌を歌っていただけたと思っています。歌詞のひと言ひと言にLiSAさんの想いが込められていて、こちらからはもう何も言うことがありませんでした。ただただ聴き惚れていましたね。

――この「炎」は「無限列車編」の最後に流れます。どのように聴いてほしいと思っていらっしゃいますか。

梶浦　映画を見た後の気持ちに合う曲をめざしてつくりました。この曲が皆さんの気持ちにジャストフィットするとうれしいです。



「炎」
作詞：梶浦由記、LiSA
作曲・編曲：梶浦由記
(SACRA MUSIC)
期間生産限定盤（CD）
本体1300円+税 / VVCL1753
期間生産限定盤（CD+DVD）
本体1800円+税 / VVCL1750-51
通常盤（CD）
本体1200円+税 / VVCL1752



10月17日
劇場版「鬼滅の刃」無限列車編 公開記念舞台あいさつ



劇場公開初日を迎えた翌日、TOHOシネマズ六本木でスタッフとキャストによる舞台あいさつが実施された。花江夏樹、鬼頭明里、下野紘、松岡禎丞、日野聡、平川大輔、外崎春雄監督、LiSAが登壇し、公開したばかりの「無限列車編」の内容について語り合った。外崎監督は「列車の中は狭くて刀が振りにくい。車掌が切符を切り、電球が点滅したのに合わせて、わからないように列車の幅を広げています」といった細かい映像のテクニックを明かしてくれた。また、舞台あいさつの最後には外崎監督が「皆さんに、無事この作品を届けられたことに、ほっとしています。長く愛される作品になればいいなと思いますので、これからも楽しんでください」とメッセージを送った。

Present!

サイン入りチェキ

サイン入り色紙





各1名様にプレゼント！ 詳しくはP.166へ！